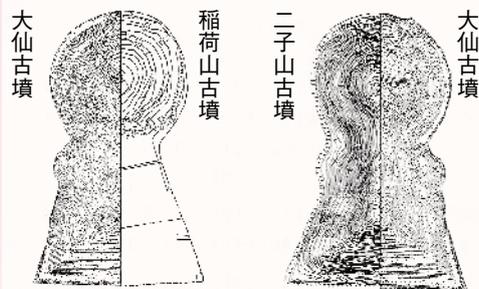


埼玉古墳群の規格、築造順序について

東日本随一の規模を誇る埼玉古墳群は、9基の大型古墳が密集して築かれていることが特徴で、そのうちの8基が前方後円墳と呼ばれる平面形が鍵穴に似た形の古墳です。

この8基のうち、將軍山古墳以外の7基は、大きさは違うものの形が似通っており、同じ規格に基づいて築かれたと推測されています。

左の図は、この7基の中で最初に築かれた稲荷山古墳と、一番大きな二子山古墳の形を、それぞれ大阪府にある大仙古墳（仁徳天皇陵）と比較したものです。実際の大きさ（全長）は稲荷山古墳が大仙古墳の約4分の1、二子山古墳が稲荷山古墳の約8分の9と大きく違いますが、



大仙古墳と稲荷山古墳、二子山古墳との墳形比較

形はよく似ています。埼玉古墳群の前方後円墳の大半は、大仙古墳と同じ規格に基づいて大きさをえて造られたようです。このように古墳の規格

の点でも埼玉古墳群と近畿地方との関連がうかがえます。しかしながら近年の発掘調査で、現在の古墳の形は築かれた当初と比較して風雨などで崩れて変化していることが分かっており、将来こうした見解が変わる可能性も出てきています。

9基の大型古墳の築かれた順序についても揺れ動いています。稲荷山古墳が最初に築かれた古墳であることはほぼ定説になっていますが、その次に築かれた古墳が丸墓山古墳であるのか、二子山古墳であるのかはつきりしていません。今年から行われている二子山古墳の発掘調査の結果が注目されます。

その後の古墳の築かれた順序については、近年古墳出土の埴輪とその多くを焼いた鴻巣市の生土埴輪窯の詳細な分析・対比から、瓦塚古墳、奥の山古墳、愛宕山古墳、將軍山古墳、鉄砲山古墳、中山古墳の順とする説が定着しつつありますが、將軍山古墳と鉄砲山古墳の前後関係など、未確定な部分が残されています。堀の形についても、近年の発掘調査で奥の山古墳が二重堀、鉄砲山古墳が三重堀であることが新たに確認されています。このように埼玉古墳群については、日々調査・研究が進められ、新たな発見と新たな課題が生まれているのです。

（文化財保護課 中島洋一）



このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



独立行政法人水資源機構が管理する利根大堰は、長さ約500メートル、12の水門などからなる堰で、昭和43年に完成したんだ。この堰は、東京都をはじめ首都圏の水不足を解消するために建設したもので、武蔵水路や見沼代用水路などを通して、利根川の水を送っているよ。ちなみに、利根大堰から水路に送る水の量は1秒間で最大137トン、小学校の25メートルプールが2秒ほどで一杯になるというから、ものすごい量だね。また、河川敷には「大堰自然の観察室」があって、魚道をのぼるアユやサケの様子を目の前で見る事ができるよ。河川敷から眺める利根大堰はとても雄大だから、みんなで見に来てくださいね。

今月の表紙 12月12日、西小学校1年生の児童が昔の遊びを体験しました。この日、児童らが体験した遊びは「こま回し」や「羽根突き」、「お手玉」など7種類。講師は、NPO法人ふるさと創生クラブの皆さんが務めました。普段の生活では体験できない遊びとあって、興味津々な様子の児童たち。講師の手ほどきを受けながら、元気いっぱい昔の遊びを堪能していました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
 ■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
 ■市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。

